

福岡県における太陽光発電設備の導入状況について

1 エネルギー利用モデル構築促進事業（平成24年度～）

＜目的＞ 優れた再生可能エネルギーを利活用するモデル等を構築することにより、エネルギー源の多様化・分散化、効率的利用の促進を図る。

＜事業＞ （1）可能性調査事業 実績44件
 （2）設備導入事業※ 実績13件 ※28年度まででメニュー終了

○設備導入事業の活用状況（太陽光発電のみ抜粋）

年度	施設	市町村	設備容量	H29年度年間発電量	設備利用率
24	弥永公民館	福岡市	3 kW	4,098 kWh	15.6%
	若宮公民館	福岡市	2 kW	2,446 kWh	14.0%
	田主丸地域保健センター等複合施設	久留米市	10 kW	13,060 kWh	14.9%
	南部保健センター	久留米市	10 kW	13,886 kWh	15.9%
25	大野城市庁舎	大野城市	80 kW ^{※1}	87,382 kWh	12.5%
	南コミュニティセンター	大野城市	10 kW	11,353 kWh	13.0%
	三連水車の里あさくら	朝倉市	48 kW	57,145 kWh	13.6%
	まいピア高田（文化施設）	みやま市	10 kW	12,857 kWh	14.7%
27	スマート水素ステーション	北九州市	11 kW	8,847 kWh ^{※2}	12.3%

※1：うち30 kWは市単独設置

※2：H29.12.25～H30.3.27は停止

【参考】 グリーンニューディール基金事業（25～27年度）

＜目的＞ 防災拠点や避難所等に指定されている公共施設及び民間施設へ再生可能エネルギー発電設備や蓄電池などの導入を支援し、「災害に強く、低炭素な地域づくり」を展開する。（環境省事業）

○導入状況（太陽光発電のみ抜粋）

導入施設	施設数	設備容量	H29年度年間発電量	設備利用率
県有施設	16	177 kW	237,002 kWh	15.3 %
市町村施設	66	741 kW	745,408 kWh	11.5 %
民間施設	2	34 kW	37,382 kWh	12.6 %

※上記の太陽光（84件）の他、風力1件、蓄電池のみ3件を導入。

2 エネルギー利用モデル構築促進事業（設備導入事業）の導入事例

(1) 三連水車の里あさくら太陽光発電設備導入事業（朝倉市）

- 「三連水車の里あさくら」に、太陽光発電設備（48 kW）を設置。
- 電気自動車（EV）充電スタンドを併設（高齢出荷者への電気自動車を活用した集荷作業等を検討）。

<概要>

発電量：57,145 kWh/年

総事業費：3,360 万円

（うち県補助金 1,680 万円）

電力の活用：

発電した電気は施設内及びEV充電スタンドで自家消費。



<太陽光発電>



<EV充電スタンド>

(2) 大野城市庁舎における太陽光発電設備導入事業（大野城市）

- 「大野城市庁舎（本館）」に、太陽光発電設備（50 kW）、蓄電池設備（25 kWh）を設置。
- 市民への啓発のため、1階ホールに発電量表示モニターを設置。
- 停電時の電源供給の安定化を図るため、別途整備した「非常用発電機」と連携。

<概要>

発電量：87,382 kWh/年

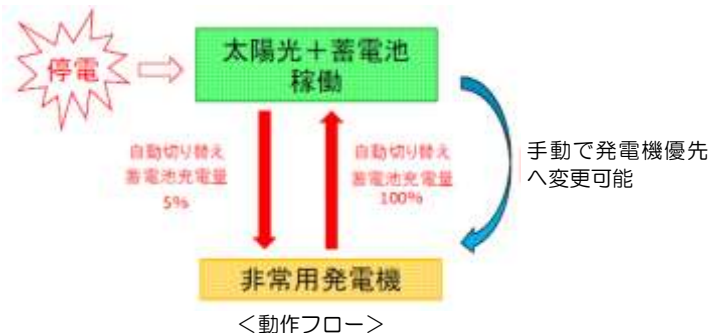
総事業費：5,166 万円（うち県補助金 2,583 万円）

電力の活用：

- ① 通常時、発電した電気は市庁舎内で自家消費。
- ② 非常時（晴天時）、「太陽光発電+蓄電池設備」から電力供給。
- ③ 非常時、雨天時など蓄電池容量が5%以下になると、「非常用発電機」から電力供給。



<太陽光発電>



※翌年度（26年度）に、新館に太陽光発電設備（30kw）を市単独で設置